

みずくらいど

校長 加藤雅弘

「学びはお金」

月曜日のズーム朝会は「学びはお金」について話しました。保護者会にお越しいただきました方には重複するところもございますが、非常に大切な内容ですのでお許してください。

例え話ですが、財布をお店に忘れた場合、そのままにしておく人はほぼいないでしょう。一方、学んだことは、忘れてもそのままにしておく人も多いのではないのでしょうか。「お金」と「学び」は違いますから、同様に考えること自体意味がないと思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私は、どちらも、身の回りの課題を解決する、あるいは自分の欲求を満たすという意味で同様の価値があると言えると考えています。

上記の板書を見ていただくと、学んだことが身の回りのことを解決したり、自分の思いをかなえたりすることがあることをお分かりいただけるかと思います。ここで示したのは一段目を除き全校の誰にでも分かる生活に生かす例です。実際の「学び」においては、次の学習場面で活用することが非常に多いはずで、いずれにしても「学んだ」ことは「使う」ことで役に立つと言えます。

学習のことを朝会では国語の「あの作者なら…」と例に説明しました。現在学習している物語文の作者が3年生で学んだものと同じ作家だったため、それを学びに活用していました。「おにたのぼうし」(3年生)「白いぼうし」(4年生)どちらもあまんきみこさんの作品です。「どちらも結末が同じ」(主人公がいなくなる)「消えるシリーズでは？」のように、二つの作品の共通点に着目した考えが出されているそうです。これはまさしく以前の学びを使って、新たな考えをつくり出している姿と言えます。さらにもっと価値があるのは二つの比較をすることで、あまんきみこさんの作品には同じような世界観があるのではないかという感覚を子供たちが自然と発見していることです。これは読書への興味関心にもつながりますし、作者を意識して読を進めるという今後一生使える学び方を獲得した側面もあります。いずれにしても以前のことを忘れていたら、このような深い学びはできません。

「学んだことはお金と同じで使える」このような意識をもっていれば、忘れることは「もったいない」と感じられます。「学びはお金」。学習でも生活でも学んだことを使えば、様々なことを解決できることを実感してほしいと願っています。

